

5 訪問先の概要

【平成30年10月31日（水）】

（1-1）台湾日本関係協会（台北市）

〔応対者〕 張淑玲 秘書長、洪英傑 専門委員、劉倍碩 科員、林育徳 科員、邱妘楡 科員

台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会を開催していただき、日台間の鳥取県と台湾との間のさらなる交流の推進等について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ この度、鳥取県と台中市が友好交流協定の締結に至ることは誠に喜ばしく、お祝い申し上げます。
- ・ 鳥取県と台中市は、昨年、観光交流協定を締結し、それから1年で本協定へと進むこととなったが、両者の今に至る縁の深さを考えると、これまで協定を結んでいなかったことがむしろ意外である。
- ・ 日本と台湾との間には国交こそないものの、日台の民間交流は極めて良好であり、自治体間交流も活発である。その中でも、鳥取県は早くから台中市との友好交流に取り組んでおり、官民ともに人的交流を重ね、顔の見える関係の構築に努めている。
- ・ 鳥取県庁が台湾出身者を国際交流員として採用していることは、交流人材確保の最たるものであり、今後とも末永く継続してもらいたい。
- ・ 台湾日本関係協会としても、台北本部と鳥取県を担当する台北駐大阪経済文化弁事処との間を往復する人材を手厚く供給し、鳥取県と台北市との友好交流のさらなる発展の支援に努める。
- ・ 台湾では11月24日に統一地方選挙が実施されるため、現在は選挙一色である。台中市と高雄市は旧県と旧市の合併で直轄市に昇格して間がなく、市長選挙では二大政党の激突に加えて旧県市間競争の様相も見受けられ、注目度が高い。



張淑玲 秘書長（左から5人目）を囲んでの記念撮影

【平成30年11月1日（木）】

（2-1）日本台湾交流協会台北事務所（台北市）

〔応対者〕 横田光弘 首席副代表、星野光明 首席副代表（経済総括）、相馬巳貴子 経済部主任（貿易相談組長）

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所を訪問し、日台交流の概況、特に日台間の定期航空路線を巡る情勢や台湾向けの本県観光商品の造成及び県産品輸出の促進について、説明を受け意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ この度、鳥取県は台中市との間で友好交流協定を締結することとなり、同時に開幕する台中フローラ世界博覧会にも出展する。鳥取県と台中市とは、約20年前に鳥取県の特産品である梨の穂木を合併前の台中県に輸出したことを契機に、長いつきあいを重ねてきた。交流分野は、農業・経済から始まったが、近年は観光・青少年交流・スポーツ交流にまで及ぶ。この成果が、昨年事務レベルで締結した観光交流協定を経て、今回の友好交流協定の調印へ結び付いたものとする。
- ・ 日本台湾交流協会としても、鳥取県と台中市との友好交流協定の締結を、誠に喜ばしく受け止めている。
- ・ 鳥取県で宿泊する外国人は、韓国、香港、台湾の順が多い。韓国との間ではエアソウルの定期航空便が週6便あり、香港との間にも香港航空の定期航空便が週3便ある。台湾との間には定期航空便がないにもかかわらず、台湾では鳥取県が人気の観光スポットになりつつあり、関西国際空港や岡山空港、あるいは陸路経由でかなりの人数の来訪がある。
- ・ 日韓の定期航空便については、昨年ころから韓国LCCによる日本の地方空港への新規就航が活発になってきたが、これは香港の場合にも当てはまることだが、どうしても時の日韓・日中の二国間の政治問題、外交情勢に左右されやすい側面がある。これに対して、日台の定期航空便については、国交こそないものの日台間の政治・外交に余り問題がないこともあってか、台湾LCCの関心はもっぱら路線の採算性に寄せられる。
- ・ 台湾LCCを日本の地方空港へ招致するための大きな課題は二つである。まず、日本の地方空港に着いた後、訪日台湾人向けにそれだけ魅力的な周遊観光プランを用意できるか。たとえば、岩手県の花巻空港では、今年8月からタイガーエア台湾の国際定期便（花巻―台北）が就航したが、台北から花巻に降りた後は、東京までずっと周遊することができるような観光パックも用意されていると聞く。
- ・ 次に、日本側からの搭乗率をいかに増やすかということである。インバウンドだけではなく、アウトバウンドにも積極的に取り組む姿勢を打ち出すと、台湾の航空業界は計算が速いので、LCCの就航を即決してもらえることがある。日本側の搭乗率支援策としては、修学旅行の行き先を台湾にすることが効果的である。日台の修学旅行生の人数を比較すると、日本の方が台湾よりもはるかに多く、5倍くらいの人が行く。また、パスポート取得費用の補助も有力な施策である。日本人のパスポートの取得率は全体で約25%とそもそも低い数値だが、中国地方に限定すると10%前後まで落ち込む。修学旅行生をはじめとして、パスポートの取得を県が支援し、県民のパスポート取得率を伸ばし、台湾への渡航が可能な母数を増やすところから始める。特に、若者世代の渡航促進は、短期長期の両面で効果が大きい。
- ・ 航空路線の利用者数を増やすためには、観光交流をしっかりと行い、その上でスポーツ、文化と裾野を広げていくこととなるが、やはりビジネス交流が下支えにならないと、なかなか拡大していかない。最近では、地方の商工会の方々が訪台することが増えている。最初は商工会の会長さんだけで訪問されるが、その後に皆さんで再訪されて、回数を重ね人数を増やしていき、ビジネス交流の底辺を広げていく。こうした事例が他県で見受けられるので、そういうことも参考にしながら交流人口を増やしていくことを期待したい。

- 日本の地方空港の中には、通関や安全検査に時間を要することがあり、到着後や出発前に1時間以上、下手をすると2時間拘束されるところがある。せっかく定期航空便が飛んでも、空港運用の不手際で航路の利便性が損なわれ、利用者にストレスが生じてしまっただけでは、台無しである。鳥取砂丘コナン空港でも、かつて台湾からの自転車持ち込みの通関で長時間を要した例があり、台湾との自転車交流が中断したことがある。ストレスなく通関や安全検査を通過できる空港は、やはりリピーターが増えていく。通関や安全検査の円滑な運用は極めて重要なことである。通関の運用は、設備を1台増やすか、人員を増やすか、いずれにせよほんの少しの措置で劇的に改善される。問題が生じているのであれば、県と国との間で改善策をしっかりと相談していくことが肝要である。
- 通関の運用円滑化は、境港での国際定期航路や国際クルーズ船の受入れにも当てはまる課題である。通関機能については、境港と米子鬼太郎空港、鳥取砂丘コナン空港との間で連携していくことも考えられる。
- 昨年、鳥取県の和牛が肉質日本一になったが、最近の台湾では、宮崎牛の幟をたくさん見かける。昨年の10月初旬のことだったが、日本から台湾に輸出された和牛第一便が宮崎牛のA5だった。その時の宮崎県関係者による「宮崎牛のA5」にこだわった売り込みが非常に熱心で、一気に宮崎牛のA5がブランドとして供給され、今の広がりに至っているという経緯がある。本来、牛肉の格付け等級はA5が最上というわけでもないし、霜降りのしゃぶしゃぶが最もおいしい食べ方だと言い切れることもない。このブランドの和牛は、こういう肉質の特徴があるので、こういう料理をして、こういう食べ方をすると、とてもおいしい。そういうストーリーをきちんと説明し、おいしい食べ方を提案する宣伝広報が重要である。台湾でも、単に売場面積を確保し、商品を置いておくだけでは全然売れない。鳥取和牛についても、こうした観点を踏まえ丁寧に魅力を発信していけば、台湾での商機を見出すことができるはずである。
- 現在、日本中の自治体が台湾との地方間交流を競争している。実は、従来の日台交流を、台湾の地域別で見れば、首都の台北限りを圏域とするものが70%超を占めてきた。それが最近ようやく、台中、台南、高雄と南側に交流圏域が広がりつつある。こうした中、鳥取県は台中市との友好交流にこつこつ取り組んできたわけであるから、今後はその先見の明を生かし、ぜひとも一步を先んじて台中市との協力関係を深めていくことが大事である。



横田光弘 首席副代表（左から3人目）を囲んでの記念撮影

(2-2) 台中市立沙鹿国民中学 (台中市)

〔対応者〕 台中市立沙鹿国民中学 洪幼齡 校長、台中市立石岡国民中学 鄭清峰 校長、台中市英語輔導団 李國禎 先生、台中市教育局関係職員

英語教育及び国際交流に力を入れている台北市立沙鹿国民中学を訪問し、その取組内容について調査を行い、また、中学2年生の英語授業を見学させていただいた。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 台中市立沙鹿国民中学は、国際交流に熱心に取り組んでおり、昨年7月には教育旅行の一環で鳥取県を訪問し、日南町立日南中学校及び倉吉市立久米中学校と生徒同士の交流を行った実績がある。
- ・ 台中市立沙鹿国民中学は、生徒数1,512名（3学年59学級）、職員数165名のいわゆる大規模校であり、台中市内でも有数の進学実績を誇っている。
- ・ 台中市立沙鹿国民中学における英語教育の質が高いとされる要因としては、英語教育のための設備が充実し、英語教師が生徒の関心を引きつけるような授業を行うことができるからである。
- ・ 台湾では、義務教育を受ける児童・生徒の英語能力の向上を国策としており、予算措置により設備と機材の拡充に努めている。
- ・ 英語教員の資質向上については、台中市の場合、優秀な教師を英語輔導団（台中市国教輔導団語文領域国中英語小組）に選抜し、担任を持たせず英語教授に専念させている。本務校にとどまることなく、複数の学校を巡回し、それぞれの学校で英語の特別授業を担当する。その特別授業は、他の教員のための見学・研修にも用いられ、英語授業のノウハウの教授が行われていく。
- ・ 英語の特別授業は多目的教室で行われる。教師はプロジェクターを操作し、ビジュアルを多用したスライドを教材として使い、日常や生活に関する英会話を表現していく。教師の発言は英語中心で行われるが、中国語で補足説明を挟むこともある。
- ・ 生徒にその場で課題を与え、グループ単位で議論させ、発表させるなど教師と生徒との双方向対話型授業を多用する。課題の例としては、台詞の部分が空欄となっている四コマ漫画を出題し、コマの順番と英語台詞の穴埋めを生徒の自由な発想に任せ、各グループに自分たちなりの回答を発表させる。その上で、教師が簡単に講評し、さらに生徒同士でも講評を行い、最も優れている回答を生徒全員の投票によって決めていく、といった方法が用いられる。
- ・ なお、多目的教室は、廊下側内壁が九二一大地震をはじめとする台湾での地震の歴史と教訓を写真入りで説明する展示パネルを兼ねており、防災教育にも活用されている。



英語輔導団教員による特別授業の様子



生徒グループの回答例



防災教育展示パネルを兼ねる教室の壁



洪幼齡 校長（中央上）、李國禎 先生（中央下）、沙鹿国民中学208組生徒の皆さんとの記念撮影

（2-3）台中市温泉観光協会（台中市）

〔対応者〕 台中市温泉観光協会 羅進州 理事長、総 理事（統一度假村經理）、蘇冠霖 事務局長
神木谷假期大飯店 郭存彰 經理、台中市和平区民代表会 管慧莉 代表

台中市温泉観光協会主催の歓迎夕食会を開催していただき、鳥取県と台中市との間のさらなる観光交流の推進等について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ 台中市温泉観光協会は11軒の旅館とホテル（神木谷假期大飯店、恵来谷関、統一度假村、四季温泉、伊豆温泉、谷野会館、東勢林場、日光温泉、麒麟峰温泉、清新温泉、帝輪温泉）が法人会員を構成し、個人会員数は105名である。
- ・ 来年の初夏には星野リゾートが谷関温泉での開業を予定している。これを契機に、谷関温泉を訪れる日本人観光客が増え、谷関温泉の日本における知名度・注目度がさらに向上することを期待している。
- ・ 台中市の谷関温泉は鳥取県の三朝温泉と姉妹温泉である。三朝温泉は大変魅力的な温泉であるが、三朝のラジウム温泉は台湾人にとってはなじみのあるものではないので、広報宣伝に際しては温泉の効能を詳しく説明する必要がある。
- ・ 亜熱帯にある台湾では雪が降ってもスキーができるほどは積もらない。雪景色に憧れを抱く台湾人は多い。鳥取の冬を台湾に向けて広報宣伝する際には、スキー場だけでなく、幻想的な雪景色を眺めながら温泉に浸ることができる雪見温泉の要素を売り出すことも考えられる。
- ・ 台湾の大学生を対象に、鳥取県内の旅館・ホテルで約1か月のインターンシップを受け入れていただいている。今後、この交流実績を活用し、台湾の調理・観光分野の学科学生又は見習い従業員を対象に、半年から1年間程度の長期研修を鳥取県内の旅館又はホテルで受け入れていただき、日本流のおもてなしを本格的に習得する機会を設けてもらうことはできないだろうか。最近の若者はSNSで情報の交換や交流を活発に行う。研修に行く

学生から多くの台湾の若者に向けて鳥取に関する情報が発信されていく効果も期待できると思われる。

- ・ 台中市和平区は、生産される果物の種類が豊富で、特に9月中旬から11月中旬の柿、11月下旬から1月の雪梨が人気である。鳥取県北栄町も、果物が豊富で、特に台湾人が好むスイカが有名だと聞く。
- ・ 台中と鳥取との定期航空便の実現に向けては、台中市温泉観光協会としても、できる限りの支援を行っていく。



羅進州 理事長（中央）を囲んでの記念撮影

【平成30年11月2日（金）】

（3-1）裕毛屋台中崇徳店（台中市）

〔対応者〕 裕毛屋企業股份有限公司 謝明達 執行総経理

日本の地方自治体との連携に熱心で、多くの物産展開催実績がある裕毛屋を訪問し、その取組内容について調査を行い、また、当日、実施されていた鳥取県物産展を見学させていただくことができた。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

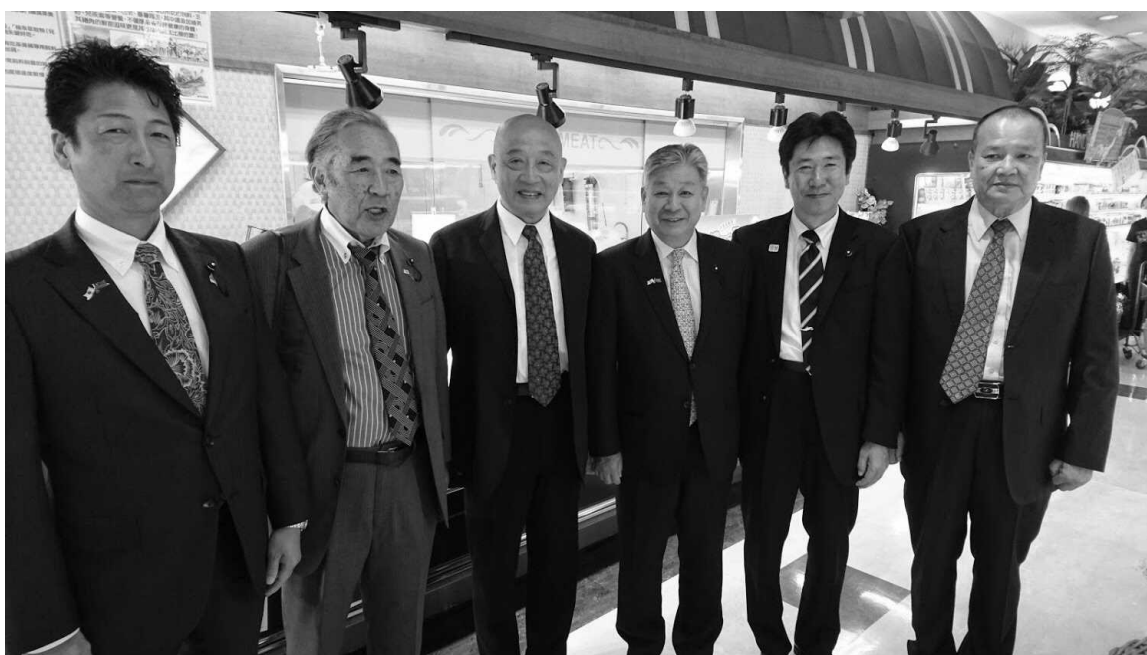
- ・ 裕毛屋は、台中市を中心に3店舗を展開する高級スーパーマーケットであり、台中市内では1位の売り上げを誇る。「安心・安全・健康・自然」をモットーに無添加・無農薬食材を中心に取り扱い、その中で日本直送品が商品全体の8割を占めている。
- ・ 裕毛屋の経営元である株式会社裕源は台湾外資系の日本企業である。台湾一部上場企業である福懋興業股份有限公司の日本支社として設立され、その後分離独立し現在に至る。台湾本社グループ製品の日本総販売元であるとともに、セブンイレブン、イトーヨーカ堂、ヨークベニマル向けのオリジナル・プレミアム商品、販促物、業務用資材等の開発・輸入を行う。近年は、自社製品とは別に台湾産の果実・農産物の日本への輸入や日本産の食材・果物・農産物の台湾への輸出を積極的に展開している。
- ・ 裕毛屋の店頭には、株式会社裕源が日本各地から調達した日本産の食材、果実、農産物が生産県別に並んでいる。加工食品についても、無添加・無農薬の日本食材を用い、完全自社開発で取り組んでいる。ジュース、ジャム、ソーセージ、かまぼこ、スープ、アイス

クリーム等の多数の商品を揃えており、保存料を使わないことから冷凍で販売されている。
なお、パンや弁当、総菜もすべて日本産の無添加・無農薬食材から調理・提供される。

- ・ 日本産の食材、果実、農作物は安心・安全かつ高品質であることから付加価値が高く、高級食品としてのポテンシャルが大きい。台中市は台湾でも富裕層、家族世帯が多いことから、主に日本産を取り扱う高級スーパーマーケットという販売モデルに商機があると判断し、裕毛屋の多店舗展開に踏み切った。
- ・ 日本産という大枠ではなく日本の産地別による細やかなブランド・イメージの形成にも注目しており、日本の各地方自治体との協力関係の構築に努めている。物産展については、必ず産地の地方自治体と共同で実施することにしており、その自治体関係者が店頭に立ち、お客様に直接、産地と食材を売り込んでもらうことを条件としている。
- ・ この日、裕毛屋台中崇徳店では鳥取県物産展が開催されたが、開店前の朝礼では、鳥取県からも自治体や生産者団体の関係者が揃って立ち会い、物産展で売り込もうとする主な食材の特徴や魅力についての説明が入念に行われ、売場担当すべての店員の間で情報共有が円滑に行われていた。
- ・ なお、全国農業協同組合連合会鳥取県本部（JA全農とっとり）関係者の方々が熱心に店頭販売に取り組む中、平井伸治鳥取県知事とチーム「百花繚蘭」とによるしゃんしゃん傘踊りの披露も行われ、生産者と行政が一体となったの県産品セールスが展開された。



鳥取県物産展における県産品陳列の様子



謝明達 執行総経理（中央）を囲んでの記念撮影